

広島で平和を考える Education of Peace in Hiroshima	河上 暁弘	2年	後期	長東
		2単位	選択	講義

**1. 授業の目的(ねらい)**

本授業は音楽学科のディプロマポリシーの「教養科目群から、所定単位を修得して、豊かな人間性と社会性を支える広い教養を修得している」と関連している。平和と何でしょうか？ 戦争がないこと—それも確かに大切なことです。しかし、たとえ戦争がなかったとしても、生きていることがつらいと感じられる事例が山ほどあります。実は、これも全て「平和」に関する問題です。本講義は、広島から現代の世界と日本において平和の理念と現実を深く考え、平和を実現するための課題を多角的な視点から探るものです。

**2. 授業計画**

回	授業のテーマ	講義内容	授業目標	教材
1	「平和」とは何か	平和とは何か。戦争・武力紛争がないだけではなく、その原因となる「構造的暴力」（飢餓・貧困・差別・抑圧・搾取等）へ視点を向ける。	そもそも大学での学ぶことの意味・方法、さらに平和という言葉の意味等を考える	配布プリント（レジュメ・資料）
2	現代はいかなる時代か—「核時代」「地球時代」としての現代	広島・長崎への原爆投下の世界史的意味（核時代の世界史的意味）と「地球時代」としての現代の課題	現代はいかなる時代かを考える。核時代、地球時代として描かれる現代の特徴を考える	配布プリント（レジュメ・資料）
3	広島の現代史1「軍都広島」と原爆投下	戦前・戦中の広島「軍都」としての側面（大本営、大久野島毒ガス製造等）と原爆投下の実情について、	近現代における「広島」の位置（加害と被害）を見つめなおす	配布プリント（レジュメ・資料）
4	広島現代史2 ヒバクシャと核兵器廃絶	「ヒバクシャ」が戦後の核廃絶運動・平和運動において果たしてきた役割について	「原爆都市」が「平和都市」と見なされるに至る歴史的位相を見つめなおす	配布プリント（レジュメ・資料）
5	原子力と核の「平和利用」	原子力発電に関する論点を人権・民主主義の視座からの分析する	原発・核の「平和利用」をめぐる論点を考える	配布プリント（レジュメ・資料）
6	戦後日本の平和理念1 「平和憲法の誕生」と「平和国家」	日本国憲法成立の歴史的背景とその過程について	日本国憲法の平和主義について歴史的減点から考える	配布プリント（レジュメ・資料）
7	戦後日本の平和理念2 日本国憲法前文・9条の平和主義の理念	日本国憲法の平和主義（前文・9条）の理念とは何か	日本国憲法の平和主義の理念について人権・民主主義・立憲主義の視座から考える	配布プリント（レジュメ・資料）
8	平和と「現実主義」	軍事的防衛論・国家安全保障論の「現実性」についての分析	安全保障論議の中で主張される「現実主義」とは何かについて改めて考える	配布プリント（レジュメ・資料）
9	平和と教育1 学習権と教育への権利	人権としての教育（学習権と教育への権利）について	人権の視座から教育を考える	配布プリント（レジュメ・資料）
10	平和と教育2 国家と教育	戦前・戦後の教育理念、国家と教育の関係	国家と教育の関係、教育の自由と権利について考える	配布プリント（レジュメ・資料）
11	平和と教育3 平和教育の課題	平和教育における論点、課題	平和教育の課題、平和博物館の課題を考える	配布プリント（レジュメ・資料）
12	戦後日本の平和の「構造」—「豊かさ」の構造と陥穽	戦後日本の「平和」とは何であったか その構造と陥穽を探る	戦後日本の「平和」の特徴とそれをもたらした「構造」について考える	配布プリント（レジュメ・資料）
13	日米安保体制と沖縄	戦後沖縄における米軍基地形成史と日米地位協定について	沖縄の視座から日米安保体制を考える	配布プリント（レジュメ・資料）
14	冷戦後の世界と日本—新自由主義と軍事化	新自由主義と「グローバル競争国家」・軍事化の構造と背景	冷戦後の世界の構造転換を新自由主義・軍事化の2つの視点から分析する	配布プリント（レジュメ・資料）
15	残された平和の論点—人権としての平和	「平和への権利」とは何か	人権の視座からあらためて平和を考える	配布プリント（レジュメ・資料）
16	学修の振り返り	これまでの学修を振り返りそれぞれにコメントをする	学修のふりかえり	

3. 最終到達目標	4. 評価方法	5. 学修法(予習・復習等)
各目録の論点があるべき政治や社会のあり方、現実政治の置かれた状況等について、多様な視点から考え、そして、それらに関する自らの学問的見解を、論理的・説得的に表現・説明できるようになることが到達目標です。	1. 授業参加の態度（コメント用紙・期末レポート）20% 講義終了後のコメント用紙および期末レポートを提出してもらいます。 2. 試験（参照なし）80% 基本的な内容の説明	講義教材（レジュメ・資料）を必ずもう一度よく読みこんでください（1時間）。さらにレジュメ末尾にある「参考文献」を読み、応用的な学習を常に心がけてください。自学習は60時間以上とする。

**6. 教科書・参考図書等**

- A. 講義教材 レジュメその他の資料（紙媒体）を講義時に配布します。その他、参考となる教材や資料を指定・示すこともあります。
- B. 参考図書 水島朝穂『ヒロシマと憲法』第4版、法律文化社、2003年、河上暁弘『平和と市民自治の憲法理論』敬文堂、2012年

**7. その他(履修の要件等)**

初回の説明が最重要なものであるべく初回から出席してください。受講者が少数の場合はゼミ形式で授業を行います。その場合は、発言・討論・期末レポート等で総合的に評価します（上記「4. 評価方法」）。ホットなテーマをとりあげたいので、各回の講義内容を変更する場合があります。

**8. 学修成果との関連(短大のみ)**

知識・理解	技能	態度・志向性	総合的学習・思考力